

令和 2 年 2 月 19 日

教 育 長 様

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">研究コース</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">グループ研究 A</td></tr> <tr><td style="width: 10%;">選定番号</td><td style="width: 90%; text-align: center; padding: 2px;">125</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">校園コード（代表者校園の市費コード）</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center; padding: 2px;">661456</td></tr> </table>	研究コース		グループ研究 A		選定番号	125	校園コード（代表者校園の市費コード）		661456		<p>代表者 校園名 : <u>大阪市立今里小学校</u></p> <p>校園長名 : <u>山口 祐子</u></p> <p>電話 : <u>06-6981-8800</u> F A X : <u>06-6971-9535</u></p> <p>事務職員名 : <u>梶谷 早恵</u></p> <p>申請者 校園名 : <u>大阪市立今里小学校</u></p> <p>職名・名前 : <u>首席 田原健之介</u></p> <p>電話 : <u>06-6981-8800</u> F A X : <u>06-6971-9535</u></p>	校印
	研究コース											
	グループ研究 A											
	選定番号	125										
	校園コード（代表者校園の市費コード）											
661456												

### 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	1
2	研究テーマ	<b>I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～</b>			
3	研究目的	<p>新学習指導要領では、言語能力、問題解決能力と並んで、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として育成することが求められている。大阪市教育振興基本計画においても、I C T 活用教育の推進、主体的・対話的で深い学びのための授業改善が重点課題として挙げられている。本校教職員は、デジタル教科書、学校教育放送の番組やデジタルコンテンツ等、児童の実態に合わせて日常的にI C Tを効果的に取り入れた授業を実践してきた。昨年度は、児童の「読む力」の向上のため、I C Tを活用するという研究を進め、児童の主体的な学びが継続する課題設定を工夫し、児童が自ら進んでI C Tを活用するという実践を行った。</p> <p>本年度は、研究テーマを「I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」とし、年間を通してI C Tを児童が主体的に活用する授業改善を行う。また、どの教科でも「習得・活用・探求」の学習の流れを確立し、児童が主体的に情報を収集、取捨選択、分類整理し、発表する活動の中で、協働してプレゼンテーション資料を作成したり、互いの発表を聞きあったりする過程で対話的な学習につないでいけるようにする。さらに、自分の考えや意見を他者と比較することで、自分の考えや意見を確かなものにし、児童の深い学びを実現するような授業実践をおこなっていく。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>○ 情報教育への授業力向上を目的に、全教職員が情報活用能力育成の視点から授業改善を行い、研究授業を行った。</p> <p>○ 情報活用能力育成の一環として、児童のプレゼンテーション能力向上に努め、情報の収集、分析整理、編集、発信を「あつめる」「まとめる」「つくる」「つたえる」の4つの観点にまとめ、全学年共通のワークシートやプレゼンテーション資料作成へのサイクルを確立した。</p> <p>○ I C T機器や学校教育放送を日常的に活用した授業実践を行い、日々の取り組みをまとめた「I C T活用年間計画」を作成した。</p> <p>○ 年間4回（7月、10月、11月、2月）研究授業後に園田学園女子大学教授を招聘し、指導講評ならびに研究を進めるにあたっての助言をいただいた。</p> <p>○ I C T支援員に年間12回来校してもらい、研究授業でのサポートや日常的な授業支援、機器メンテナンスを行った。</p> <p>○ 各学期ごとに「情報活用能力チェックリスト」を活用し、児童の情報活用能力の推移をはかり、その都度みえてくる課題に対する授業改善を各学年部会で推した。</p> <p>○ プログラミング教育の環境整備を行い、2人に1台のプログラミング機材や発展的なプログラミング教育に活用できるロボットを整備し、研修会（1月）を設け、活用することで、教員のプログラミング教育に対する授業力向上をはかった。</p> <p>○ 外部講師を招き、プログラミング教育の研修（9月）を行い、教員の授業力向上をはかった。</p>			

	取り組んだ研究内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小小連携・小中連携でのICT活用研修会や公開授業（8月、11月、1月、2月）を行い、本校の取り組みを発表するとともに、情報活用能力到達度の統一をはかる取り組みを行った。</li> </ul>												
5	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p><b>【検証方法1】</b> 経年調査・校内アンケートにおける、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 ⇒昨年度より、1.1ポイント上昇し、91.6%になった。</p> <p><b>【検証方法2】</b> 児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、年度末に実施し、全学年とも平均ポイントを10%向上させる。 ⇒川崎市教育センターが作成した情報活用能力チェックリストを活用して、児童の情報活用能力の推移をみた。どの学年もすべての項目で上昇し、肯定的な回答は平均値で89.3%で、1学期から16.2ポイント上昇した。</p> <p><b>【検証方法3】</b> 教員のICT活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、総合平均ポイントが3.3以上となるようになる。 ⇒ ICT活用指導力アンケート結果が、総合平均ポイントで3.7となった。特に「児童の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを提示する」「グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」という項目で高い数値を示した。</p> <p><b>《まとめ》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が日常的にICT機器を活用し、課題に対して主体的に取り組むことで、児童の情報活用能力が向上した。</li> <li>○ プレゼンテーション資料作成のためのマニュアルの整備や、ICT年間活用計画表の作成を通して、児童のプレゼンテーション能力が向上し、学校教育放送の番組利用から、発表時に気を付けることを意識し、相互チェックすることでコミュニケーション能力の向上にもつながった。</li> <li>○ ICT年間活用計画を作成したことで、来年度、人事異動等があっても本年度と同等以上の指導が可能になる。</li> <li>○ プログラミング教育用教材を整備し、研修の頻度を増やすことで、教職員の情報教育への指導力向上をはかることができた。来年度より本格的に始まるプログラミング教育について、不安を払拭することができた。</li> <li>○ 外付けキーボードの購入や、キーボードレッスン用アプリの充実などで、児童のキーボード入力のスキルが向上し、今後の情報教育がますます発展的に進めるようになると考える。</li> </ul> <p><b>《課題》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報教育への教職員の意識や授業力向上はみられたが、さらなる充実を図る必要がある。</li> <li>○ 児童の実態や本校の取り組みにより即した形での情報活用能力のチェックを行う必要がある。</li> <li>○ プログラミング教育へのさらなる環境整備・研修等も必要。</li> <li>○ GIGAスクール構想を見据えた、遠隔授業やプログラミング教育への挑戦。</li> </ul>												
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td><td>令和2年2月5日</td><td>参加者数</td><td>約40名</td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="3">大阪市立今里小学校</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="3"></td></tr> </table>	日程	令和2年2月5日	参加者数	約40名	場所	大阪市立今里小学校			備考			
日程	令和2年2月5日	参加者数	約40名											
場所	大阪市立今里小学校													
備考														

令和 2 年 2 月 19 日

教 育 長 様

研究コース	代表者 校園名 : 大阪市立今里小学校	校園長名 : 山口 祐子	校印
グループ研究A	電話 : 06-6981-8800	F A X : 06-6971-9535	
選定番号	事務職員名 : 梶谷 早恵		
125	申請者 校園名 : 大阪市立今里小学校		
校園コード (代表者校園の市費コード)	職名・名前 : 首席 田原健之介		
661456	電話 : 06-6981-8800	F A X : 06-6971-9535	

## 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	I C Tを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの 実践～
-------	---

費 目	金 額	備 考
9 旅費	5 普通旅費	54,950
教育センターでの予算管理	計	54,950 ①
8 報償費	1 報償金	97,960
11 需用費	1 消耗品費	356,950
	4 印刷製本費	
12 役務費	1 通信運搬費	
	5 筆耕翻訳料	
14 使用料及賃借料	1 使用料	
18 備品購入費	2 校用器具費	184,882
	3 図書購入費	
19 負担金、補助金及交付金	5 会費	4,000
学校での予算管理	計	643,792 ②
合 計		698,742 ①+②

この報告書は2020年2月25日（火）までに提出すること。

## 内訳明細

(H31 様式 5-2)

研究コース	グループ研究A	代表校校園コード	661456
代表者	大阪市立今里小学校	校園長名	山口 祐子
申請者	大阪市立今里小学校	申請者名	首席 田原健之介
事務職員名	植谷 早恵		

費目	内 容	数量	単 価	金 額	予定月
9 - 5 普通旅費	視聴覚教育研究大会（広島）	1	19,120	19,120	10
	情報教育研究会等	1	5,650	5,650	~11
	授業づくりセミナー（東京）	1	30,180	30,180	12
費目小計				54,950	△
8 - 1 報償金	研究会講師謝礼（大学教授）	2	23,080	46,160	10・2
	ICT研修講師謝礼（民間技術者）	5	10,360	51,800	10~2
費目小計				97,960	△
11 - 1 消耗品費	プログラミング学習教材（基盤型）	19	13,100	248,900	12
	プログラミング学習教材（ロボットカー型）	7	13,300	93,100	12
	HDMIケーブル	1	4,950	4,950	2
	タブレット用キーボード	5	2,000	10,000	2
費目小計				356,950	△
11 - 4 印刷製本費					
費目小計					
12 - 1 通信運搬費					
費目小計					
12 - 5 筆耕翻訳料					
費目小計					
14 - 1 使用料					
費目小計					
18 - 2 校用器具費	授業用PC	1	184,882	184,882	10
費目小計				184,882	△
18 - 3 図書購入費					
費目小計					
19 - 5 会費	授業づくりセミナー（東京）	1	4,000	4,000	12
費目小計				4,000	△
合 計				698,742	△